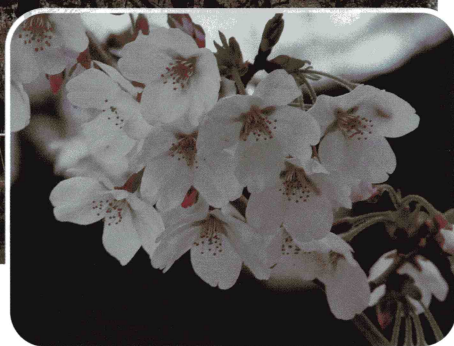


農工大の樹 その48



〈 解 説 〉

ソメイヨシノ

(バラ科サクラ属の種、学名：*Prunus×yedoensis* Matsumura、漢字：染井吉野)

日本にはサクラの中間は自生種が10種、自然交配種が約20種あります。園芸品種はすでに室町時代からあり、江戸時代には約250種の品種、現在では約300種が知られています。このソメイヨシノはオオシマザクラとエドヒガンの交配雑種で、江戸時代の末期に江戸染井村（現在の豊島区）の植木屋で発見され、そこから「吉野桜」の名で売り出され、その後、明治33年（1900年）に出版された書籍で「染井吉野」という和名がつけられたというのが定説です。江戸の昔、玉川上水の土手に植えられた「小金井桜」は有名で、多くの人々が花見に訪れました。時代背景から考えると、その時のサクラは華やかな花のソメイヨシノではなく、葉と花が同時にでるヤマザクラだったようです。同じ「花見」でも今とはずいぶんと感じが違っていたでしょうが、赤い顔をした大虎、小虎が出没したのは同じだったのでしょうか。ソメイヨシノは広く全国に植栽されており、「サクラ前線」の指標として使われています。この写真は小金井キャンパスのグランド脇に咲き誇るソメイヨシノです。

(農学部教授 福嶋 司)